「判定事例による質疑事項と設計者の対応集」（第 3 次改訂版）に関する講習会 Q&A

R4.10.26

構造	番号	質疑	回答
RC 造	1	**【判定事例の対応集 P39　2.23】** 「付帯柱の最初の引張降伏である150ステップを保有水平耐力とするのが安全側でありますが、層間変形角1/150以下であれば160ステップを保有水平耐力とすることができます。」とのことでしたが、「2階以上の付帯柱で先んじて引張降伏していたとしても、1階の付帯柱が引張降伏した時点を保有水平耐力とすることができる。」ということですか？	層間変形角が 1/150 以下であれば、2 階以上の付帯柱が先に引張降伏していたとしても、1 階の付帯柱が引張降伏した時点を保有水平耐力とすることができます。 複数の耐震壁がある場合等で、一部の耐震壁が曲げ降伏しても建物重心位置の層間変形角が 1/150 以下であれば、耐力を保持したまま増分解析を行い保有水平耐力とすることができます。
その他	2	**【判定事例の対応集 P55　NO.23】** 支持地盤が砂岩・頁岩・花崗岩等であれば、告示式を採用していても学会式と同様に、平均N値の算定範囲は上1d 下1d とし、換算N値（上限100）を採用できるとのことでしたが、先端の支持地盤への埋め込み長さは関係ありませんか？ （たとえば、「埋め込み長さが拡底径以上の場合に限る」など）	杭先端の埋め込み長さについての規定はありませんが、拡底杭については評定時の設計施工マニュアルによります。 東京都の先端の N 値を採用できる根入れ深さ、1.0m以上かつ杭径の 1/2 以上を参考に設計することができます。